



2022年度 6年次生 総合薬学研究 卒業論文発表会開催

教務課

2022年6月20日（月）・21日（火）の2日間、創立130周年記念館で卒業論文発表会を開催しました。

本学の教育の特徴である「総合薬学研究」は3年次後期から所属する分野等(研究室)の教員指導の下、課題研究を実施して研究手法を習得し、研究の楽しさ・難しさを学び、得られた結果の検討や成果をまとめて6年次に卒業論文発表会で発表します。



卒業論文発表会はポスター形式で行い、ポスターの作成及び発表は英語で行います。今年度から質疑応答及び評価について、学生1名の発表に対して、教員1名から教員2名に変更しました。これにより、専門領域が異なる複数の教員から、より多角的な指導を受けることができるようになり、発表後に取り組む論文執筆にも良い影響が出ると期待されています。

CONTENTS

■ 特集

第4期中期計画の策定について…………… 4

■ イベント

2022年度 6年次生 総合薬学研究 卒業論文発表会開催…………… 1

2022年8月オープンキャンパスの開催について…………… 10

理科実験講座

「身近な夏の不思議体験 2022 イン山科」…………… 11

■ お知らせ

京薬会だより…………… 3

2022年度生涯研修プログラムのお知らせ…………… 13

人事異動…………… 14

市民向け公開講座「京のやくたちばなし」…………… 15

Library News…………… 17

■ コラム

十人十色「お芝居をすることの魅力」…………… 12

学生相談室だより…………… 16

卒業生からのメッセージ…………… 17

■ 報告

【寄稿】名誉教授授与にあたって…………… 3

第107回薬剤師国家試験の結果について…………… 7

2023年度大学院の入学選考結果…………… 9

【寄稿】京都橋大学と合同イベントを開催しました！…………… 10

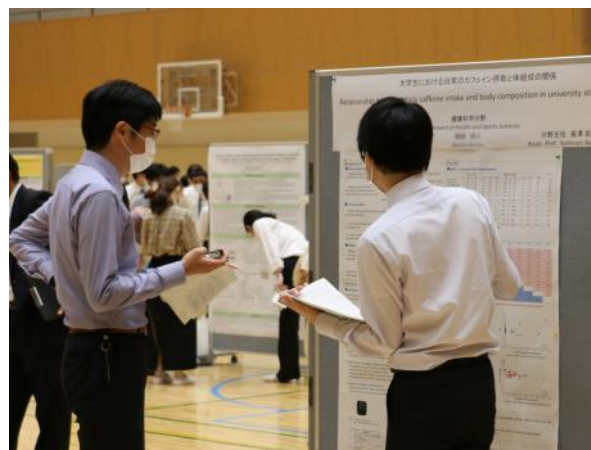
受賞・掲載…………… 18

京都薬科大学奨学寄附金芳名録…………… 20

また、昨年度までは新型コロナウイルス感染拡大防止のため、会場内は発表者と評価者のみとして入場を制限していましたが、今年度は4～6年次及び大学院の学生も入場して議論に参加できるようになりました。学生同士の活発な議論や4～5年次生の研究意欲の喚起にもつながったものと考えています。

今年度の発表会では活気が戻り、盛会のうちに全日程を終えることができました。関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

※感染防止対策を講じて開催しました。



<2022年度 卒業論文発表会スケジュール>

日時		系	分野等
6/20 (月)	13：30～13：50	準 備	
	第1部 13：50～14：40 14：40～15：30 (50分交代)	創薬科学	薬化学
			薬品製造学
			薬品化学
			生薬学
		附属施設	薬用植物園
	15：30～15：50	生命薬科学	公衆衛生学
			病態生理学
			休憩・ポスター貼替
	第2部 15：50～16：40 16：40～17：30 (50分交代)	病態薬科学	薬物治療学
			臨床薬理学
			薬理学
		分析薬科学	薬品分析学
			代謝分析学
		統合薬科学系	薬品物理化学

日時		系	分野等
6/21 (火)	13：30～13：50	準 備	
	第3部 13：50～14：40 14：40～15：30 (50分交代)	生命薬科学	衛生化学
			微生物・感染制御学
			細胞生物学
			生化学
		病態薬科学	病態生化学
	15：30～15：50	基礎科学	臨床腫瘍学
			健康科学
			放射性同位元素研究センター
	第4部 15：50～16：40 16：40～17：30 (50分交代)	附属施設	共同利用機器センター
			休憩・ポスター貼替
			薬学教育
			臨床薬学教育研究センター
			医療薬科学
			薬剤学
			薬物動態学
			臨床薬学
			臨床薬剤疫学

【寄稿】名誉教授授与にあたって

Report

■ 名誉教授 後藤 直正

本年6月17日に、土屋理事長および松田事務局長のご臨席のもと、赤路学長より2022年4月1日付の「名誉教授称号第54号」を拝受いたしました。本学の伝統と歴史の継承に御尽力されました、先導の53名の諸先生に続くほどの身の丈でもなく、恐縮するばかりです。手続き等をお取り頂きました、赤路学長始め関係の方々に御礼申し上げます。

薬学の天地が鳴動した、2006年の薬学6年制の開始に巡り会い、未知の6年制の構築に微力ながら貢献したように思っております。15年余りが経過し、新たな課題の

解決が囑望されています。本学の皆様なら、その課題の解決どころか、それをバネにして新たな展開を示されると期待しております。



(左から)土屋理事長、後藤名誉教授、赤路学長

■ 名誉教授 山下 正行

本年7月4日に学長室にて、土屋勝理事長、松田成史事務局長、坂口義美事務局参事ご臨席のもと赤路健一学長より2022年4月1日付で名誉教授の称号を賜り「名誉教授称号証書」を拝受いたしました。本学には、31年弱の長きにわたりお世話になりましたが、教育・研究・大学運営に貢献できたかは甚だ疑問に感じておりますが、歴史と伝統ある京都薬科大学からこのような称号を授かることは、身に余る光栄であり、心よりお礼申し上げます。

在職中は教員・職員・学生の皆様には大変お世話になり、無事定年を迎えることができたことは皆様の御陰と感謝しております。特に分野に配属された学生さんとは

一緒に実験・研究を通じて学びあえたことはよい思い出になっています。京都薬科大学のさらなる発展をお祈りいたします。



(左から)土屋理事長、山下名誉教授、赤路学長

■ 名誉教授 有本 収

本年4月1日付で名誉教授称号を拝受いたしました。定年退職後は実家に転居し、遠方でもあることから大学での証書拝受は叶いませんでしたが、赤路健一学長から祝いの連絡を頂戴するなど恐縮しているところです。

本学には薬学部6年制が開始された2年目に着任し、15年間お世話になりました。この間、薬学および薬学教育

を取り巻く状況に大きな変動があったように思います。この大事な時期に充分なことができたか、今振り返ってみて心許ない限りですが、歴史と伝統に輝く京都薬科大学からこのような称号を賜り、まことに光栄に存じます。在職中の皆さまからのご厚情に改めて感謝するとともに、本学のますますの発展をお祈りいたします。

News 京薬会だより

11月6日（日）の午後に「京薬山科移転90周年」記念事業として下記の講演会を予定しています。あわせて写真展も開催予定です。詳しくは、追って京薬会ホームページ（<https://www.kpu-aa.com>）でご案内します。

【講演会】

鈴木栄樹氏（愛学躬行歴史資料室委員長）

「京都薬学専門学校から京都薬科大学へ

—昭和期における山科での薬学高等専門教育のあゆみ—



第4期中期計画の策定について

2021年度をもって第3期中期計画が終了し、2022年度から新たに第4期中期計画が始まりました。第4期中期計画の策定にあたっては、2021年2月に設置した中期計画策定ワーキンググループを中心に、各種調査の結果や学内意見募集を踏まえて課題を洗い出し、議論を重ねてきました。

また、具体的な5ヵ年計画やその達成水準案の作成においては、中期計画策定ワーキンググループから指名された推進責任者・担当者の教職員の皆様の多大なるご尽力に加え、2回の学内意見募集において全職員・各部署等から、貴重なご意見をいただきましたことに感謝申し上げます。

理事長 土屋 勝
学 長 赤路 健一

Feature article.

1. 本学における中期計画の取り組みについて

大学における中期計画の策定は、2020年4月の私立学校法の一部改正により義務付けられましたが、本学では、法制化される15年前の2007年度から5ヵ年ごとに中期計画が策定され、実行されてきました。2006年度から薬学教育6年制がスタートしましたが、既に、同時期に学内において中期計画の必要性および大学運営や組織運営等の在り方に関する活発な議論を経て本学の中期計画が策定されており、第1期中期計画の開始から今日に至るまで、中期計画を大学経営の中心に据えて、教育研究等が推進されてきた経緯があります。

本学は私立大学の中でも早期に中期計画の策定に取り組んでおり、第1期中期計画（躬行プラン2007.4～2012.3：表1）では、「組織・制度改革」を、第2期中期計画（2012.4～2017.3：表2）では、「制度運用と施設整備」に主眼を置いて推進されてきました。第3期中期計画（2017.4～2022.3：表3）では、教員評価制度の導入、学生の自立性を高める学生チャレンジ事業や学内ジョブ制度の実施、薬剤師リカレント教育の一つであるLehmannプログラムの開講や生涯教育の充実、安定的な財務基盤構築のための資産運用の取り組みなどが着実に推進されてきました。コロナ禍において一部実施が見送られるなどの影響を受けた項目もありますが、一方で第3期中期計画に掲げていない取組みとして、遠隔講義収録システムの整備、新型コロナウイルス感染症緊急支援金の給付や、PCR検査室の開設、職域接種の実施など、教職協働で積極的に取り組むことができました。また、第3期中期計画を推進するにあたり、全ての計画の進捗状況・評価を確認できる「中期計画進捗管理システム」を導入し、職員間における情報共有の環境が整備されたことにより、中期計画の円滑な推進に大いに寄与しています。

表1

第1期中期計画 主な推進項目
大学運営の機能強化
理念・目的に沿った教育・研究の推進
薬剤師国家試験合格率の向上
学生にとって学びよい安心・快適な環境の提供
安定的財務基盤の構築

表2

第2期中期計画 主な推進項目
中期計画の推進
自立した学生の育成
幅広い人材育成のための教育活動
研究を通じた教育活動
教育・研究活動を支える組織・制度
財務計画
施設・設備の整備

表3

第3期中期計画
第1章 先端的研究の展開と教育への反映
(1) 科学的思考を育む教育研究能力の向上
(2) 教育研究環境の向上
第2章 医療界の各領域でリーダーとなる人材を輩出する大学へ
(1) 自立性・社会性・豊かな教養を育む教育
(2) 自立性・社会性・リーダーとしての素養を育む学生支援
第3章 盤石な経営・財務基盤の構築
(1) 持続的且つ安定的な経営及び新たな財務基盤の整備
(2) 大学が有する学術資源の社会への還元及びブランド構築
第4章 教職協働による大学運営
(1) 大学の機能強化と業務改善
(2) その他の重要目標

2. 第4期中期計画について

2022年度から開始される第4期中期計画（2022.4～2027.3）の策定に関して、2021年2月理事会において策定体制および策定スケジュールが承認されました。第4期中期計画の内容については、2016年12月に創立150周年に向けて以下に示す「マスタープラン」が策定されていることから、マスタープランを基本としつつ、2022年度から5年間で取り組むべき課題に関して、第3期中期計画までの成果を基盤にしながら、外部評価（大学基準協会・薬学

教育評価機構）、教職員からの学内意見募集、職員満足度・意識調査、学生満足度調査などのそれぞれの結果を踏まえ、学内の教職員に加えて学外理事を含めた13名からなる中期計画策定ワーキンググループにおいて、第4期中期計画の骨子案が策定されました。

2021年8月に骨子案に対する学内意見募集を実施した後、中期計画策定ワーキンググループでの議論を経て、第4期中期計画の本文案、達成水準、5カ年計画案を策定しました。同年9月に再度本案に対する学内意見募集を実施後、同年10月開催の評議員会、理事会において本案が承認されました。2022年3月には、第4期中期計画に関する学内説明会を実施し、本年4月から第4期中期計画が開始されています。なお、第4期中期計画は、教職協働による推進を前提としており、推進項目ごとに、教育職員・事務職員を推進担当者として配置し、職員一丸となって実行されることとなっています。

「京都薬科大学マスタープラン」に掲げる3つの推進項目

1. 先端的研究の展開と教育への反映

先端的な研究を推進し、科学体系をもとにした教育を展開することで、科学的思考能力を備え薬学の発展に貢献する意欲に溢れた学生を育成・輩出する。

2. 医療界の各領域でリーダーとなる人材を輩出する大学へ

薬学領域のみならず、広い領域で活躍し、将来、各界のリーダーとなるべき「発展的なファーマシスト・サイエンティスト」の育成を行う世界展開を視野に入れた大学への発展を目指す。

3. 盤石な経営・財政基盤と教職協働による大学運営

教育職員及び事務職員の教職協働並びに学生の積極的な参加を得て、社会をはじめ多様なステークホルダーへ、大学の学術資源を還元する体制を拡充するとともに、本学の存在価値を高め、社会から愛され、必要となる大学となることで盤石な基盤強化につなげる。

■ 第4期中期計画

第1章 先端的研究の展開と教育への反映

(1) 高度な研究力に基づく先端的研究の推進

① ネットワーク型（多層連携協働型）共同研究基盤の構築

学内外における共同研究体制の基盤強化は、先端的研究の推進だけでなく、教育への波及効果を高めるためにも不可欠である。先端的研究を推進するための基盤を提供する共同利用施設・センターの整備を進めるとともに、研究ネットワークを充実しオリジナリティーの高い研究成果の創出と本学教育プログラムへの還元を目指したシナジー研究体制（ネットワーク型共同研究）の整備・強化を行う。

② 先端的・萌芽的研究の創成と研究支援体制の強化

本学の研究戦略全般を推進するため、研究を統括する組織を明確化することにより、生命現象の理解や創薬研究の端緒につながるような萌芽的研究の創成に向けた環境を整備する。また、若手研究者、大学院生が中心となって最新研究動向を共有し議論する場として研究フォーラムを企画・実施する。加えて、必要に応じて外部リソースも活用し、国際連携研究への対応力も含め、研究支援体制を強化する。

③ 臨床研究体制の強化

ファーマシスト・サイエンティスト育成のためには、臨床系研究分野・センターのさらなる機能強化が必要である。学外の大学・研究機関との医療情報科学に関する共同研究、病院・保険薬局等の医療機関との連携を通じて、大規模データ解析の基盤的教育・先端的研究プログラムの拡充、卒業研究、大学院研究の充実を図る。学内では基礎研究分野とのマッチングシステムを構築し、臨床と基礎の密接な連携を目指す。

(2) 科学的思考を育む教育基盤の強化

① 新カリキュラムの策定

本学の教育を通して、分野横断的かつ統合的な科学的思考力、高い倫理観をもって、他者の多様性を前提として協働できる力、社会の多様化と変化に対応できる力を醸成する。一方で、将来にわたって自己研鑽し続ける姿勢を涵養し、卒業後、各領域でリーダーシップを発揮できる人材を育成する。これらの点については、2024年度入学生から適用される新カリキュラム（2024カリキュラム）においても同様に重視しつつ、2024カリキュラムでは、withコロナ社会における我が国の薬学教育をリードする内容とする。そのために、ICTを活用してより教育効果の高い授業形態とし、Society5.0社会に適応できる薬剤師を育成するための独自教育を展開する。

② 大学院教育課程の充実と強化

先端的研究並びに臨床研究推進の基盤となる大学院機能の充実・強化の観点から、大学院教育プログラム・カリキュラムの再構築を進め、基礎薬学コースおよび臨床薬学コースの実質的機能化、大学院進学者数の拡充を図る。また、大学院生への経済的支援制度や研究活動並びにキャリアパスに対する支援プログラムを整備、強化することで、大学院における研究支援環境を充実させる。

第2章 医療界で活躍できる人材の育成

(1)多様な観点からの教育の充実と学生支援の拡充

①医療の担い手としての人材育成のための支援の拡充

在学生への支援・働きかけとして、入学前教育や低年次学修支援、国家試験ストレート合格率の向上、キャリア教育・支援を切り口に、学生支援の深化・拡充に向けた取組を実施する。これらは単に「学習」に対する支援だけではなく、学生の縦横の繋がりや教職員との繋がりなど、「人間関係構築」も含まれている。また、医療における薬学の役割の理解や医療人としての自覚を醸成することにより、学修意欲の向上や将来の進路の選択・実現に繋げていく。その他、メンタルサポート等、経済支援や多様化する社会に応じた学生支援などの観点も念頭に置き、計画を推進する。

(2)大学リソースの積極的活用による社会への還元

①人的資源を活用するための強固なネットワーク基盤の構築

本学のリソース、特に「人的資源」の積極的な活用を実現するために、主に卒業生支援やリカレント教育活動を推進する。まずは、卒業生の卒後のキャリアを把握するためのネットワーク基盤の構築（整備）を行う。卒業生とのネットワークを強固にすることで、それを活用した相互支援体制の構築が可能となり、相互交流の場から生まれた成果を社会に還元する。

②多様なステークホルダーとの連携による卒業生支援の発展的強化

特に卒後間もない世代のニーズ等を調査し、それに応える取組の検討を行う。この取組により、大学を取り巻く多様なステークホルダーとの連携による卒業生支援をさらに強化する。生涯教育・リカレント教育活動及び教育研究イベントにおける支援を強化し、大学リソースの積極的活用による社会貢献につなげる。

第3章 大学運営基盤の強化

(1)組織の活性化・運営の強化

①教育・研究の活動力（パフォーマンス）を活性化させる組織体制の構築

個々の教育職員の継続的な教育・研究活動の充実を図り、大学全体の教育・研究の活動力を活性化させるため、教育・研究組織における人員の適正配置、教育研究支援体制の見直し・改善を推進する。また、想像力豊かな教育・研究活動を展開するために必要となる、多様性を尊重する組織環境の創出・維持のために、他機関との間で職員の交流を推進すると共に、高い専門性の下、多様な視点を内包した教育・研究機関として、学生、職員が活躍できる専門性・ジェンダー・年齢等に関するダイバーシティを備えたキャンパス環境の構築を目指す。

②健全な運営体制の維持・強化

危機管理体制（未然のリスク管理及び危機発生後の対応）の実践的整備を行い、コンプライアンスを徹底し適切なガバナンスに取り組むことにより、受験生や保護者、卒業生等の様々なステークホルダー及び広く社会から信頼される大学であり続けるように社会的信用を一層高める。また、大学運営の透明性を確保し、情報公開を積極的に行う。さらに、コンプライアンス推進の前提となる良好なコミュニケーション環境の創出・維持のために、教職員が意見交換のできる場を整備し、健全で風通しのよい大学運営を目指す。

(2)社会動向を踏まえた入学者選抜の検討

①外部要因、学内データを踏まえた入試制度の検討と入試広報の強化

本学の教育課程や輩出する人材像は、卒業生に求められる社会での役割を念頭においたものであり、その役割とは、文部科学省や厚生労働省の提言等をはじめ、我が国の科学技術政策や医療政策等の動向、社会情勢を踏まえたものである。このような本学の教育課程で学ぶに相応しい入学者を継続的に確保していくために、入試制度および入試広報活動に関する点検・評価、改定を含めた見直し、改定後の点検・評価などの一連の過程を適切に遂行する体制を、入学試験データを扱う入試課に加えて、教務課や学生課、進路支援課、IR委員会などの学生に関するデータを扱う部署が連携して構築していく。この遂行過程においては、卒業生を取り巻く社会の動向を踏まえ、入学試験データや学内成績の解析結果に加えて、新たに学修態度を客観的に評価できる指標を検討しつつ、その解析結果を入試制度の検討および入試広報活動の強化に活用していく。

3. 今後に向けて

第4期中期計画は「教職協働」による推進を前提としております。教育職員・事務職員がそれぞれの経験や能力を活かしながら中期計画を推進していくことにより、2034年の創立150周年に向けた「マスタープラン」実現につなげていきたいと考えております。今後とも本学の教育・研究・運営に、引き続きご協力ならびにご尽力くださいますようお願い申し上げます。

第107回薬剤師国家試験の結果について

◇ストレートで卒業し、1回で合格しよう！そのためには1年次からの学修の積み重ねが重要！◇ *Report*

薬学教育研究センター長 細井 信造

第107回薬剤師国家試験（6年制薬学の11回目）が2022年2月19日、20日に実施されました。前回（第106回）から新薬剤師国家試験出題基準に準拠して出題されています。難易度は前回（第106回）とほぼ同程度でしたが、代表的8疾患（がん、高血圧症、糖尿病、心疾患、脳血管障害、精神神経疾患、免疫・アレルギー疾患、感染症）に基づいた、医療現場での実践力を問う問題および実験結果や図表から読み解く問題が増えています。単なる知識のみならず、一層読解力、思考力、応用力、実践力が求められています。「臨床力」を求めると、実務実習の成果を問う問題、複数の疾患を抱える患者に対して、適切な治療薬を提案する問題、医師のように患者背景から診断を求める問題、更には医師から処方提案を求められる問題など、チーム医療の一員として薬剤師の職能を発揮するための知識や判断力を求める問題が出題されました。また、新型コロナウイルス感染症に関連した問題も出題されました。新型コロナウイルス感染症以外にも、オンライン診療による処方解禁になった緊急避妊薬やポリファーマシーの対策として国が実施した施策を問うものも出題されていました。日頃から医療に関する情報に目を向けることも大切です。薬学理論問題では「物理・化学・生物」と「衛生」「法規・制度・倫理」の3連問、「薬理」と「病態・薬物治療」の2連問など科目横断的に考える問題が出題され、このような問題は今後益々増えていくことが予想されます。また、今回も化学構造式が「物理・化学・生物」および「衛生」のみならず「薬剤」「薬理」などでも見られたことから、化学構造から化学的・物理化学的性質、薬物代謝様式および薬理作用等を推し量る能力が求められていると言えます。全体的には、「日々医療情報を収集し、問題解決能力を持った即戦力となる薬剤師を国は求めている」問題であったように感じました。

表1. 男女別、設置主体別合格率

(1) 男女別合格率①

区分	総数	男		女	
出願者	15,609名	6,188名	(39.64%)	9,421名	(60.36%)
受験者	14,124名	5,480名	(38.80%)	8,644名	(61.20%)
合格者	9,607名	3,489名	(36.32%)	6,118名	(63.68%)
合格率	68.02%	63.67%		70.78%	

(2) 男女別合格率②

区分		総数	男		女	
6年制 新卒	出願者	9,726名	3,575名	(36.76%)	6,151名	(63.24%)
	受験者	8,665名	3,110名	(35.89%)	5,555名	(64.11%)
	合格者	7,386名	2,633名	(35.65%)	4,753名	(64.35%)
	合格率	85.24%	84.66%		85.56%	
6年制 既卒	出願者	5,585名	2,430名	(43.51%)	3,155名	(56.49%)
	受験者	5,217名	2,223名	(42.61%)	2,994名	(57.39%)
	合格者	2,126名	803名	(37.77%)	1,323名	(62.23%)
	合格率	40.75%	36.12%		44.19%	
その他	出願者	298名	183名	(61.41%)	115名	(38.59%)
	受験者	242名	147名	(60.74%)	95名	(39.26%)
	合格者	95名	53名	(55.79%)	42名	(44.21%)
	合格率	39.26%	36.05%		44.21%	

(3) 設置主体別合格率

区分	総数				6年制新卒				6年制既卒				その他			
	出願者	受験者	合格者	合格率	出願者	受験者	合格者	合格率	出願者	受験者	合格者	合格率	出願者	受験者	合格者	合格率
国立	662名	634名	535名	84.38%	492名	485名	444名	91.55%	71名	63名	35名	55.56%	99名	86名	56名	65.12%
公立	286名	279名	226名	81.00%	217名	217名	196名	90.32%	34名	31名	9名	29.03%	35名	31名	21名	67.74%
私立	14,660名	13,210名	8,846名	66.96%	9,017名	7,963名	6,746名	84.72%	5,480名	5,123名	2,082名	40.64%	163名	124名	18名	14.52%
その他	1名	1名	0名	0.00%									1名	1名	0名	0.00%
本学	422	387	344	88.89%	379	350	323	92.29%	39	34	21	61.76%	4	3	0	0.00%

さて、今回の試験では国公立併せて73大学の学生が受験しました。15,609名が出願し受験者総数14,124名中、合格者は9,607名で合格率は68.02%（第106回：68.66%）でした。6年制新卒の全国合格率は85.24%と僅かに低下しました（第106回：85.55%）。また、6年制既卒者の合格率は40.75%と新卒に比べてかなり低く年々その合格率が低下（第106回：41.29%）し、新卒合格率との差が一層大きくなる傾向にあります。本学では新卒者350名が受験し、合格者は323名（合格率92.29%）、6年制既卒者は34名受験して合格者は21名（合格率61.76%）、4年制既卒者は3名受験して合格者は0名、本学総合合格率は88.89%で、全国総合6位（73校中）（第106回：6位）でした。2020年度に続いて2021年度もCOVID-19の影響で入構および対面授業が制限され、また留年経験者の割合が大きかった学年でありましたが、前年度と同程度の結果となった要因として以下のことが挙げられます。

- 1) アドバンスト薬学では、問題演習に重点を置き、問題演習量を増やしたこと
- 2) 各自、国家試験に向けて高い学修意識を持って計画的に取り組んでいたこと
- 3) アドバンスト薬学の講義は全て収録した後、できる限り早くオンデマンド配信し、何回でも視聴できるようにしたこと
- 4) 反復学修の一つの機会としてウィークリーテストを実施したこと
- 5) 学内教員および外部講師による講義の質問対応の機会を設けたこと（メールでの対応やZoomでの質問会の開催など）

6) 当センター教員による質問対応および個別の学修相談（非対面）などきめ細やかな学修フォローアップを行ったこと

次に、今春卒業した本学6年制11期生の評定平均と国家試験合否との関係を調べました。表2に示すように、これまでと同様、評定平均と卒業・合格率との間に明確な相関が見てとれます。即ち、評定平均が下がるにつれて、卒業・合格率が低下傾向にあります。このことは、1年次からの学修の積み重ねが如何に大切かを物語っています。単位を修得するためだけの勉強ではなく、真摯に学問に向き合い、普段から将来の医療従事者としての自覚や国家試験等を見据えた高い学修意識を持つことが肝要と考えます。

表2. 評定平均と国家試験の合否との関係

評定平均 ※1	学生数	卒業者	合格者	不合格者	卒業・合格率
95点以上	1	1	1	0	100.0%
90点以上95点未満	5	5	5	0	100.0%
85点以上90点未満	27	26	26	0	96.3%
80点以上85点未満	52	52	51	1	98.1%
75点以上80点未満 ※2	79	78	77	1	97.5%
70点以上75点未満 ※3	93	88	81	7	87.1%
65点以上70点未満 ※4	115	97	79	18	68.7%
65点未満	5	3	3	0	60.0%

※1 専門必修講義科目の平均点
※2 休学者1名を除く
※3 退学者1名を除く
※4 退学者2名を除く

本学6年制11期生に対しても、これまでと同様に今後の教育および国家試験対策に活用する目的で、国家試験の解答データ入力への協力を要請したところ、350名の受験者中311名が入力してくれました（入力率88.9%、前回：86.2%）。表3に示しますように、本学総合正答率は73.8%（厚労省通知）で、前年度（72.8%）とほぼ同じであったことから、難易度は前回と同程度であったといえます。また、問題区分ごとの正答率を全国平均と比較しますと、何れも上回っています（必須問題：+1.8ポイント；薬学理論問題：+3ポイント；薬学実践問題：+3.5ポイント；総合：+2.9ポイント）。特に、応用力や思考力、実践力を問う薬学理論問題や薬学実践問題で3～3.5ポイント上回っていることは評価すべき点です。平均正答率30%未満の問題が20題（前回20題）あり、その内訳は必須問題で4題（前回1題）、理論問題で9題（前回8題）、実践問題で7題（前回11題）と、総数で前回と同じでした。科目ごとの正答率を比較しますと、物理・化学・生物および病態・薬物治療は相対的に正答率が低いものでした。また、衛生の必須問題、法規・制度・倫理の理論問題および衛生の実践問題の正答率がそれぞれ、+14.1ポイント、+8.4ポイントおよび+8.3ポイントと前回は大きく上回っていました。

表3. 科目別・問題区分別平均正答率

問題区分	必 須 問 題							
科目	物理・化学・生物	衛生	薬理	薬剤	病態・薬物治療	法規・制度・倫理	実務	合計
問題数	15	10	15	15	15	10	10	90
最低点	6	7	9	7	5	2	1	59
平均点	12.0	9.6	13.9	11.5	10.8	9.2	8.4	75.4
最高点	15	10	15	15	15	10	10	88
平均正答率	79.8%	95.6%	92.6%	76.8%	72.2%	92.0%	84.2%	83.8%
学内全体（新卒）								83.30%
全国（新卒）								81.50%

問題区分	薬 学 理 論 問 題							
科目	物理・化学・生物	衛生	薬理	薬剤	病態・薬物治療	法規・制度・倫理	実務	合計
問題数	30	20	15	15	15	10		105
最低点	5	6	5	3	4	4		40
平均点	16.3	13.5	12.8	8.9	10.1	8.5		70.0
最高点	29	20	15	15	15	10		97
平均正答率	54.4%	67.5%	85.3%	59.1%	67.2%	84.8%		66.7%
学内全体（新卒）								66.30%
全国（新卒）								63.30%

問題区分	薬 学 実 践 問 題								
科目	物理・化学・生物	衛生	薬理	薬剤	病態・薬物治療	法規・制度・倫理	実務	合計	総合計
問題数	15	10	10	10	10	10	85	150	344 ※5
最低点	4	2	6	2	2	5	47	82	174
平均点	9.9	7.5	9.1	6.6	6.1	8.7	63.0	111.0	251.9
最高点	15	10	10	10	9	10	77	136	315
平均正答率	65.8%	75.5%	91.2%	66.5%	60.8%	87.0%	74.1%	74.0%	73.2%
学内全体（新卒）								73.30%	73.80%
全国（新卒）								69.80%	70.90%

※5 解なし1問除く

第107回薬剤師国家試験における正答率の高い問題および低い問題の得点率と総得点率の相関を示します。正答率60%以上の問題（255題）と総得点率には強い相関が見られました（図1）。一方、正答率60%未満の問題（90題）と総得点率との相関は、正答率60%以上の問題との相関に比べると低いものでした（図2）。つまり、国家試験の合格基準をクリアするには、皆が正解する問題をしっかりと得点に結びつけることが大事ということです。そのためには、6年次に実施される確認試験および模擬試験の結果を見て、全体の正答率が高い問題で、自分が間違った問題については、必ず見直し定着させるよう努めることが重要です。

図1

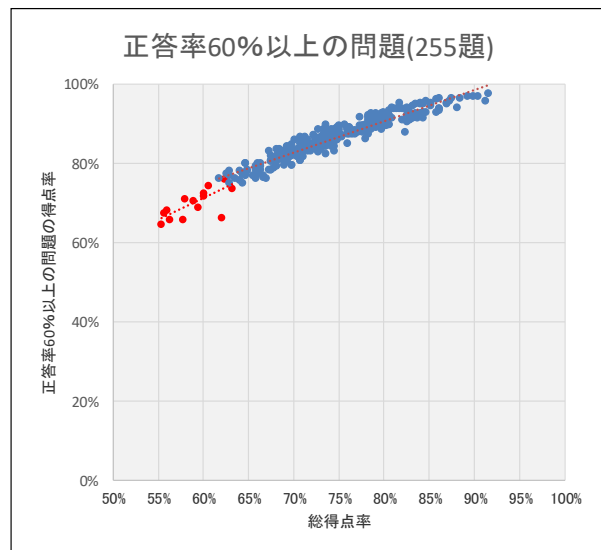
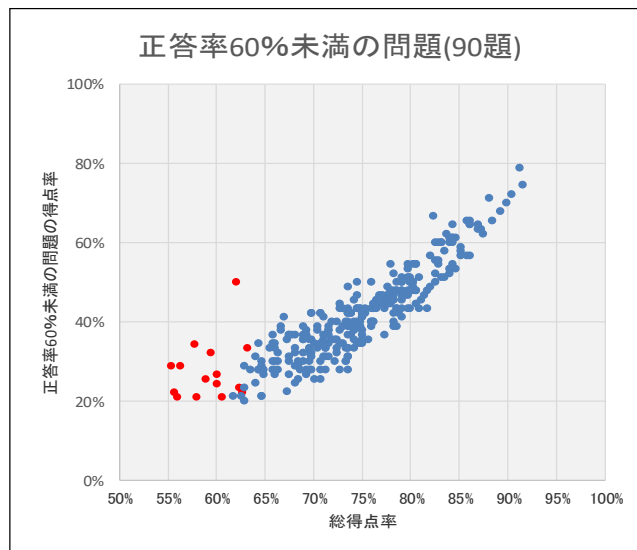


図2



<第108回薬剤師国家試験に向けて>

国家試験は年々難化しており、付け焼刃的な学修では対応できなくなっています。つまり、低学年次からの学修の積み重ねが重要であり、6年次になって焦って慌てて勉強しても間に合わない可能性が高いということです。1年次から国試対策をなさい！と言っているわけではありません。1～3年次生の皆さんは、日々の勉強をしっかりとすればよいのです。ただし、理解を伴わない丸暗記学修はお勧めしません。4年次生以上の皆さんは、まずは、苦手あるいは弱点と考えられる科目から始めて苦手意識を払拭し、逆に武器（強み）に変えられるよう努力しましょう。基礎系科目、すなわち物理・化学・生物は他の科目の基礎であり、定着するには時間がかかるため、反復学修が重要となります。薬理および薬剤は国家試験において、合格者と不合格者との正答率の差が大きい科目であることが明らかとなっています。国家試験では内容が偏ることなく科目の垣根を越えて出題されますので、重要項目を中心に理解しながら、また他の科目と関連付けて勉強することも大切です。今、成績がよくない、あるいは先行きが不安であると感じている学生さんは、これまでの勉強方法に問題点はないか検証し、早急に実効性のある勉強法の確立を目指しましょう。分からないことを放置するのではなく、ちょっとしたことにも疑問を持ち、直ぐに調べ、解決するように努めることも大切ですし、友達と一緒に勉強し、教え合うことも効果的な学修方法です。各教科の内容に関する質問については『オフィスアワー』を、学修に関する悩み相談については薬学教育研究センターの『学びコンシェルジュ』を是非利用して下さい。国家資格取得は、あくまでも通過点にすぎません。皆さんそれぞれの目標を達成するためには平素の努力の積み重ねと早めの行動が大切です。

雨垂れ石を穿つ！

2023年度大学院薬学研究科薬学専攻博士課程（夏季募集）

の入学選考結果

Report

入試課

2023年度大学院薬学研究科薬学専攻博士課程（夏季募集）の入学選考を8月22日（月）に実施し、8月26日（金）に合格発表を行いました。入学選考の結果は次の通りです。

○2023年度大学院薬学研究科
薬学専攻博士課程（夏季募集）

志願者数	11名
受験者数	11名
合格者数	11名

【寄稿】京都橘大学と合同イベントを開催しました！

Report

こばやし ちなつ ますだ きさ まつだ えりか
■ 2年次生 小林 千夏 ■ 4年次生 増田 妃紗 ■ 5年次生 松田 英里香

私たちME-ME（ミーム）は、2020年に大学コンソーシアム京都「学まち連携大学」促進事業の一環として発足した、京都橘大学と京都薬科大学の共同学生団体です。山科・醍醐地域の活性化や両大学の地域での存在感向上、両大学間の交流促進を主な目的に活動しています。本記事では7月31日（日）に東野公園で開催した「景観喫茶」についてご紹介します。

今回は元々、数種類のお茶を本学メンバーが選定し、その成分や効能を説明しながら提供する「薬膳喫茶」を企画していました。しかし医療および保健衛生上の危害発生防止のため、効能を謳うには薬剤師資格が必須であること、更にコロナ禍で飲食物の提供が躊躇われることから「お茶提供の代替案創出」が課題でした。そこで先生方からご意見を伺いつつ話し合いを重ね、来場者の方に楽しんでいただけるよう変わり種

のお茶（マテ茶やコーン茶など）を、衛生面を考慮してペットボトルの市販品で提供することを決めました。そしてこの変更や開催場所が自然溢れる公園であることに伴い、企画名を「景観喫茶」としました。時間が差し迫る中でチーム一丸となって、お茶の提供を諦めることなく、本状況下での最適な代替法を準備できたと感じています。一方で、効能発信に関する先生方からのご指摘より、一薬学生の言葉が過度に信じられ

健康被害につながる恐れがあることに気付き、考えの甘さを省みました。薬剤師とはそれほど責任が重く、信頼していただける職種であると再認識し、将来その期待に応えられるよう勉学に励むことを決意しました。

お茶の他にも、公園での新たな楽しみ方を見つけて

もらうべく、公園地図上に示された5種類の草花を巡ってキーワードを完成させる「草花ビンゴ」や、京都で親しまれているボードゲーム「オニム」といった様々な遊びを準備しました。キーワードを完成できた方に両大学の公式ボールペンをプレゼントしたところ、地域の子供たち等に大変喜んでもらえました。

これまでME-MEとして複数回イベントを開催してきましたが、コロナ禍による活動制限で本学メンバーはイベント当日に赴くことが困難であり、オンライン会議や事前準備に注力してきました。しかし今回ようやく活動制限が緩和されたことで、念願の京都橘大学メンバーとの対面および、イベント当日への参加が叶いました。そして何より雨天延期も乗り越え、無事開催でき、企画した内容を幅広い年代の方に楽しんでいただけて、心から嬉しかったです。現在、ME-MEは新メンバーを募集しています。本活動に興味を持っていた方は、学生課を通じて、お気軽にご連絡ください！お待ちしております！



景観喫茶で配付したお茶など



子供たちも楽しんでくれました

2022年8月 オープンキャンパスの開催について

Event

入試課

8月6日（土）・7日（日）の2日間、オープンキャンパスを開催しました。

新型コロナウイルスの爆発的な感染拡大の状況から、対面プログラムの内容を一部変更・中止し、オンライン型ではプログラムの視聴、来学型では学内施設の自由見学可とするハイブリッド形式で実施しました。

両日合わせ、オンライン型視聴者数は728人、来学者数は651人と、多くの方にご参加いただきました。

今回、新コンテンツを2つ追加しました。1つ目の「卒業生にきく仕事のハナシ」は本学の卒業生から具体的な仕事内容のお話から、将来像を想像していただくプログラムで、就職活動を終えた在学生も交え、トークライブを実施しました。

2つ目の「学びのロードマップ」は、3年次生の岩本柚葉さんと武上教授が登壇し、京都薬科大学での学びはどのように進んでいくのか、実際の大学生活を想像できるプログラムであり、こちらもトークライブ形式で実施しました。

また、在学生による企画では、大学生活や高校時代の

勉強法などを在学生の視点から紹介しました。

いずれのプログラムにおいても、リアルタイムで質疑応答を行いました。参加者の皆様からは多くの質問をお寄せいただき非常に盛り上がりしました。

今年度最後の開催となる10月のオープンキャンパスでは、多くの方に来学いただき、大学の雰囲気を実際に感じていただけることを願っております。



学長メッセージ

7月31日（日）本学A22実習室にて、市民組織「山科区『はぐくみ』ネットワーク実行委員会」と共に、理科実験講座「身近な夏の不思議体験 2022 イン山科」を開催しました。地域の小学生に理科の楽しさを知ってもらいたいと始まった本講座は今年で11回目を迎え、山科区の小学生にとって夏の恒例行事になっています。フェイスシールドの着用など感染防止対策を講じたうえで、昨年同様の参加定員40人で実施する予定でしたが、定員の3倍以上の申し込みがあり急遽定員を増やして開催しました。

当日は、131人の応募の中から抽選で選ばれた山科区の小学生44名が参加し、学生実習支援センター教員と企画・広報課職員のほか、市民組織の方々が地域ボランティアスタッフとして運営に携わりました。スタッフのサポートのもと、白衣に身を包んだ子どもたちが「水」をテーマとした2つの実験を通して身近な科学の不思議を体験しました。

1つ目の実験「手でつまんで持てる水！容器がいない水を作ろう」では、昆布やワカメの食物繊維である「アルギン酸」を用いて、水ボールを作製してもらいました。アルギン酸水溶液はカルシウムと反応すると溶液の表面がゲル状に変化し、薄い膜ができることでつまんで持てるようになります。「ぷるぷるの水ボールができた！」、「水がつまめた！」と嬉しそうに見せてくれる姿や、夢中になって取り組んでいる姿が印象的でした。



水ボール作製中



水がつまめた！

2つ目の実験「水が消えた！？水を吸う魔法の粉」は携帯用トイレから取り出した「高吸水性ポリマー」を用いて、吸水性や保水性を観察した後、着色したポリマーでカラフルな手作り芳香剤を作ってもらいました。わずかな量でその何倍もの水を吸収し膨らむ様子や、力をかけても吸収した水を離さない様子を観察し、「すごい！もこもこ膨らんできた！」、「押しても水が出てこない！」など子どもたちから感嘆の声が聞こえてきました。



どこまで膨らむかな？



カラフルに色付けできました



「水」の不思議に興味津々です

実験終了後のアンケートでは、「いつもは物に対してそんなに深く考えないけど、ここでは身近な不思議を見つけて解決したので楽しかったです。」、「身近な物でも実験ができることを知って、家でもやってみたいと思いました。」、「理科を身近に感じ、新しいことも知ることができたとてもいい時間でした。」などの感想をいただきました。今年度も参加した子どもたちに楽しく実験をしてもらい、理科を身近に感じ興味を持つきっかけとなったことをとても嬉しく思います。



地域ボランティアスタッフのサポートは欠かせません

最後に、講座の実施にあたり、地域ボランティアスタッフの方々にご協力いただき、各実験台にて子どもたちの実験をきめ細かくサポートしていただきました。子どもたちがリラックスして実験を楽しめる雰囲気ができているのは地域ボランティアスタッフの方々のご尽力のおかげだと思っています。この場を借りて市民組織「山科区『はぐくみ』ネットワーク実行委員会」の皆様にも深く感謝申し上げます。

今後も地域に根差した大学の役割として、近隣学区の小学生の理科教育の一助となれるよう、市民組織と共にこの取り組みを継続していきたいと考えています。なお、本講座は独立行政法人 国立青少年教育振興機構「子どもゆめ基金」の助成を受けて実施いたしました。

KPU^{NEWS}では、学生・職員の趣味や活動などを「十人十色」と題して幅広く紹介しています。
学生・職員の皆様からの寄稿をお待ちしております！

お芝居をすることの魅力

きむら すずみ
衛生化学分野 3年次生 木村 涼美

皆さんは「お芝居」というと何を思い浮かべるでしょうか。映画や舞台など、お芝居を「観る」ことを頭に浮かべた方が多いと思います。お芝居を観ることももちろん面白いのですが、今回はお芝居を「する」ことの楽しさについてご紹介させていただきたいと思っています。

私は高校1年生の時に友人に誘われ、関西を中心に活動されている劇団そとばこまちさんの公演を観劇しました。その時の心の高揚は今でも忘れられません。私も人の心を動かすことができるようなお芝居がしたいと強く思いました。そこで私は演劇のワークショップ（WS）に参加し、お芝居の勉強を始めました。演劇のWSでは発声練習やエチュード（即興劇）をしたり、台本を用いてお芝居を体験したりと、さまざまなものがあります。WSで特に印象に残っているのは発声です。自分では大きな声を出し、観客へ声を届けるように意識していても、実際には届いていないことを痛感しました。声を届けるにはイメージが大切で、意識ひとつで声の届け方が変わると教わりました。演者の方々はこれを、観客をより作品の世界へ引き込むために工夫されているのだと初めて気づきました。

「観る」だけでは気づけなかったお芝居の魅力に触れながら、経験を重ねていきました。そして、劇団そとばこまちさんの公演「付廻し（ストーカー）侍～振り向けばそこに侍～」のオーディションを受け、アンサンブルとして作品に関わりました。アンサンブルは名前がない役を演じます。一見、面白味が無いように聞こえるかもしれませんが、しかし、アンサンブルは作中において多くの役を演じます。例えば、活気溢れる街のシーンで人が一人も居ないと違和感を覚えませんか？ここで活躍するのがアンサンブルです。シーンを明確にし、作品を作り上げていく中で重要な役割を担っています。

稽古を重ねて多くを学びました。役を演じる上でその人はどんな人生を歩んできたのか、考えることが多くあり、役に厚みが増して愛着が湧き、演じていて

ても楽しかったです。また、自分が演じる事ばかり考えていては周りとの連携が取れません。周りのお芝居を頭に入れ、流れを理解することが重要となります。また、観客の視点から考えることも大切です。舞台はお客さんに届けることが最重要目的なので、話のテンポなどお客さんが観ていて楽しいと感じることを考えてお芝居を作り上げます。これらを役者1人の力でこなすのはなかなか難しいです。そのため、役者だけでなく、演出家や照明、音響、舞台監督など、多くの人の力を合わせて舞台を作り上げます。助言をいただいたり、一緒に練習を重ねて試行錯誤を繰り返したりして、より良い作品を観客へ届けられるように稽古を重ねました。お客さんにその舞台を届け、観に来て良かった、面白かったという感想をいただけた時の喜びは計り知れないものでした。



筆者が出演した舞台
「付廻し（ストーカー）侍」の一幕

今はコロナ禍ということもあり、お芝居に直接関わっていません。そのため、舞台を観劇し、どんなお芝居をされるのか、舞台照明や音響はどのような演出をされるのか、多くの視点から作品を楽しんでいます。皆さんもぜひ、実際にお芝居に触れてその魅力を体験してみてください。



- 「現在申込受付中」および「今後申込受付を開始する予定」の研修会をご紹介します。
皆様のご参加をお待ちしています。

◇「2022年度eラーニング講座」 ※申込受付中です

「2022年度卒後教育講座」および「2022年度漢方講座」を新規コンテンツとし、「2021年度卒後教育講座Web版」「2021年度漢方講座」も含めてWeb配信します。配信期間中は何度でも視聴できます。

- *配信期間：2022年6月1日（水）～2023年2月28日（火）
- *受講料：15,000円（視聴回数制限なし・PDF資料ダウンロード可）
- *申込受付期間：2022年3月1日（火）～2023年2月23日（木）
- *認定単位：1単位／1コンテンツ 京都薬科大学認定単位G24

☆1コンテンツごとに視聴後に確認テストを実施し、5問中3問以上正答で1単位を認定します。テストは複数回受験できます。

☆認定単位は、1ヶ月分をまとめて送付します。

☆過去にeラーニング講座や卒後教育講座を受講して、既に認定単位を取得しているコンテンツの視聴は可能ですが、単位の認定はありません。

2022新規 配信コンテンツ ※新規コンテンツは収録後、配信追加していきます。				
1	2022年度卒後教育講座	皮膚の痒みの臨床	14	【特別講演】漢方の改革者 細野史郎先生を語る
2		痒みの発生メカニズムと薬物治療	15	【基礎】セルフメディケーション領域の漢方―便秘―
3		認知症患者の診療と地域生活の支援	16	【薬物】薬局・薬剤師の為の分かり易い漢方『山本巖流一貫堂漢方医学』(1)感冒：風邪とは？(2)頭痛・目眩
4		出生前検査とダウン症候群	17	【臨床】心療内科領域での漢方治療―柴胡剤を中心に―
5		ダウン症治療法確立を目指したモデルマウスを用いた基礎研究	18	【基礎】セルフメディケーション領域の漢方―下痢―
6		地域連携における薬剤師の役割	19	【薬物】「漢方薬・生薬に関する最近の話題」(仮)
7		亜鉛欠乏と腸疾患	20	【臨床】効かせる漢方(女性のQOLを高めるために)
8		亜鉛の働きと亜鉛欠乏による諸相	21	【基礎】セルフメディケーション領域の漢方―むくみ―
9		知っておきたい！高齢者の口腔と「食べる力」の変化～薬剤師としてのアプローチ～	22	【薬物】知っておきたい漢方配合生薬(その2)
10	京都漢方研究会	【臨床】腎臓内科領域における漢方の役割	23	【臨床】漢方の病理学 気血水の考え方2022
11		【特別講演】難治性水滯関連疾患に対する山本巖流医学の応用～明日から役立つ利水剤の先進医学的な使い方について	24	【基礎】セルフメディケーション領域の漢方―冷え―
12		【特別講演】日本漢方の独自性	25	【薬物】生薬の選品と鑑別(3)
13		【臨床】漢方薬局での店頭経験～生薬を用いた症例を中心に～	26	【臨床】漢方薬でサポートするこれからの循環器診療

2021 配信コンテンツ				
27	2021年度卒後教育講座	慢性腎臓病の考え方と腎機能低下時の薬物投与について	39	【基礎】頭痛の漢方治療
28		CKD患者における薬物動態の変動	40	【薬物】知っておきたい漢方配合生薬(その1)
29		小児薬物療法の現状と問題点～小児薬物療法において薬剤師は何をすべきか～	41	【臨床】漢方薬局での店頭経験～炎症性疾患～
30		アレルギー性疾患について～特に、アレルギー性結膜疾患について～	42	【基礎】四肢の痛みの漢方治療
31		即時型アレルギーのメカニズム	43	【薬物】生薬の選品と鑑別(2)
32		検査値を用いた個別化医療の実現	44	【臨床】眼科領域における漢方治療
33		地域包括ケアシステムにおける薬局の役割	45	【基礎】風邪の漢方治療
34		薬局・病院での栄養療法の基礎から実践まで～現場で使える栄養療法～	46	【薬物】薬局・薬剤師の為の分かり易い漢方『山本巖流一貫堂漢方医学』(1)～3つの体質～(2)腰から下の痛み
35		薬局・病院での栄養療法の基礎から実践まで～現場で活かせる基礎知識～	47	【臨床】素晴らしい漢方！古から学び、そして薬能も考える漢方
36	京都漢方研究会特別公開講座	実臨床に役立つ漢方口訣～臨床経験知としての古典～	48	【基礎】咳・痰の漢方治療
37		ペインクリニックによる「痛みの漢方治療」	49	【薬物】漢方製剤を併用する考え方：アトピー性皮膚炎治療を例にして
38		COVID-19感染症における漢方医学の役割	50	【臨床】漢方の森の中で迷わないために・・・これだけは押さえておきたい疾患の漢方治療

◇「2022年度実務支援セミナー ～注射薬の無菌混合調製実習～」

実際にクリーンベンチ、医薬品等を使用した実習です。昨年に引き続き、本学会場と舞鶴共済病院会場の2か所にて開講。実技実習は各々の会場で講師が丁寧に指導します。リピーターの受講可ですが、注射薬無菌混合調製の経験が少ない方を対象とします。

＊開催日時：2023年2月26日（日）10:00～16:00

＊開催場所：京都薬科大学 臨床薬学教育研究センター・舞鶴共済病院

＊講師：（本学会場）京都薬科大学 臨床薬学教育研究センター 講師 中村暢彦先生
臨床薬剤疫学分野 助教 冢瀬諒先生

（舞鶴会場）舞鶴共済病院 薬剤科 部長 藤村保夫先生
あい薬局 薬剤師 楠本正明先生（元 京都薬科大学教授）

＊定員：本学会場20名・舞鶴会場5名（薬剤師限定） ＊受講料：10,000円 ＊認定単位：G24 3単位

＊申込受付期間：2022年12月7日（水）～2023年2月13日（月）

時 間	プログラム
10:00～11:30	（導入講義） ・注射薬無菌混合調製に必要な基本的知識 ・外来化学療法の実際
11:30～12:30	（昼休憩）
12:30～15:00	（実技実習） ・衛生的手洗い（ラビング法、スクラブ法） ・ガウン、手袋、帽子、マスクの装着 ・注射薬混合調製（アンプル、バイアルの取扱い） ・配合変化の実態 ・ワクチン充填 ・ガウン脱衣
15:00～16:00	（情報共有・講評） ・導入講義や実技実習に対する質疑応答 ・自施設における注射調剤の問題点や課題の共有 ・講評

◇申込方法

生涯教育センターホームページよりお申込みください。（<https://skc.kyoto-phu.ac.jp/>）



生涯教育センター
トップページ



eラーニング講座
申込ページ



実務支援セミナー
申込ページ

■問合せ先

京都薬科大学 事務局 実務・生涯教育課

＊E-mail：s-center@mb.kyoto-phu.ac.jp

＊TEL：075-595-4677（平日10:00～16:00）

＊FAX：075-595-4792



生涯教育センター
Facebook



生涯教育センター
Twitter

News 人事異動

兼務

事務局調達検収室

主事 清水 芳美

兼務 事務局企画・広報課

（2022. 6. 1付）

再任

生命薬科学系生化学分野

教授 中山 祐治

共同利用機器センター

講師 服部 恭尚

臨床薬学教育研究センター

助教 地寄 悠吾

医療薬科学系薬剤学分野

助教 森下 将輝

（以上任期：2022. 7. 1～2027. 6. 30）

昇任

事務局企画・広報課

事務局庶務課

事務局会計課

事務局施設課

事務局学生課

事務局学生課

兼務 事務局国際交流推進室

事務局進路支援課

事務局入試課

主事 仲達 依子

主事 石原 由季

主事 中西 弘樹

主事 深田 祐輔

主事 林 貴志

主事 辻 美帆

主事 西村 裕世

主事 中村 洗稀

（以上2022. 7. 1付）

京都橘大学と本学が共同開催する市民向けの公開講座を、昨年に引き続き今年も開催します。9/18、10/23、11/27の全3回*で、各回に設定された共通のテーマについて、京都橘大学の教員と本学の教員が一般市民向けに講演します。対面とオンライン受講を同時開催しますので、受講希望者は特設サイトからお申込みください。多数のご参加お待ちしております。

※9月開催分は終了しています。

■9月18日（日） 身近にある健康サポートのやくたちばなし

「かかりつけ薬剤師・薬局って？」

～薬や健康についての『なんでもよろず相談所』～

京都薬科大学 臨床薬学教育研究センター 今西孝至 講師

「ホントに様子見ていいの？ その熱、その脈、その血圧！」

京都橘大学 看護学部 看護学科 岡田純子 准教授

■10月23日（日） こどもの健康に関するやくたちばなし

「子どもにお薬を上手に飲んでもらうコツ」

京都薬科大学 臨床薬剤疫学分野 冢瀬諒 助教

「学童期の子どもたちへの運動のススメ」

～低学年から始める子どもロコモ予防～

京都橘大学 健康科学部 理学療法学科 安彦鉄平 准教授

■11月27日（日） こころを健康に保つやくたちばなし

「心の苦しみに効くクスリとしての仏教」

京都薬科大学 一般教育分野 岸野良治 講師

「ストレスは道しるべ」

京都橘大学 健康科学部 心理学科 石山裕奈 助教



2021年度開催講座の様子

*開催時間 10:00～12:00（受付開始9:30～）

*開催場所 京都薬科大学・オンライン

*主催 京都橘大学・京都薬科大学

*受講料 無料

*定員 対面100名・オンライン100名

*対象 一般市民・学生

*申込方法 下記URLまたはQRコードから申込フォームにアクセス

<https://tachibana-kyoyaku-gakumachi.tachibana-u.ac.jp/open/>

京都橘大学エクステンションセンターの電話・E-mailでも受付

(TEL: 075-574-4335、E-mail: extension@tachibana-u.ac.jp)

①講座名（京のやくたちばなし）・受講希望回 ②オンラインまたは対面受講の希望

③氏名（漢字・フリガナ）④郵便番号 ⑤住所 ⑥電話番号 ⑦メールアドレス ⑧職業

を添えてお申込みください。

■問合せ先

京都薬科大学 事務局 実務・生涯教育課

*E-mail: s-center@mb.kyoto-phu.ac.jp

*TEL: 075-595-4677（平日10:00～16:00）

*FAX: 075-595-4792



「京のやくたちばなし」
特設サイト



■ 自分も相手も大切にするための「アサーティブ・コミュニケーション」について

依然として社会活動全般が、COVID-19感染拡大防止に影響を受けていますが、本学では、今年度4月より1年次生の授業は全面対面となる等、少しずつ人の流れが広がってきています。もちろん、感染状況次第では再び様々な制限の可能性はありますが、一時期と比較すると、人と人とがダイレクトに顔を合わせて、コミュニケーションを取ることが増えてきました。

そういった直接的交流の増加に伴い、元々コミュニケーションに苦手意識を持っている人も、苦手意識があったわけではないけれど、COVID-19禍で交流の機会が減り、人との関わりが限定的となっていた人も、改めて、人間関係について困ったり、悩んだりする場面に直面しているかもしれません。

コミュニケーションの基本は自分の思いを伝えること、そして相手の思いを聞くことです。それは、一見単純に見えて実は奥深く難しいものです。例えば、頼まれ事を断る時、違う意見を述べようとする時、誰かに注意をしたい時等は、伝え方が難しいと感じる場面ではないでしょうか。「自分の思いを分かってもらうためにどういう伝え方をしたらいいのか、言いにくいことを話すにはどう話を持っていったらいいのか、逆に、相手の話や反応をどのように受け止めていけばいいのか」等、悩んでしまうポイントはたくさんあります。

アサーションという言葉をご存じでしょうか。相手に思いやりを持ちつつ自分の要求を伝えるために、その場にふさわしい方法で、自分の気持ちや意見を率直に述べることをそのように呼びます。そして、アサーティブなコミュニケーションとは、自分のことを後回しにして非主張的になるのではなく、かといって自分のことだけを考えてアグレッシブになるのでもなく、互いの意見や立場を尊重しながらも自身の意見をハッキリと伝えるコミュニケーション方法です。

アサーションを可能にするには、自然にできるようになるのを待つのではなく、スポーツや楽器演奏同

様、地道な訓練や練習をする必要があります。まずは、自分自身の気持ちや考えを捉えることが第一歩です。そのためには例えば、「私は」と主語をつけて文章を言う練習が有効です。「どうしよう」と思った時は、「私はどうしたらよいか迷っている」、「違う」と思った時は、「私は違った意見を持っている」といった具合です。また、言いにくいことを伝えた結果のことや周囲の状況を気にしすぎると、言いたいことがなかなか言えず非主張的になりがちです。言いたいことを言えないままだと、「自分のことをわかってもらえない」という不満を重ねてしまうことにつながりかねません。誰しも「自分がやりたいことを言う、思っていることを言う」権利があります。もちろん、相手にも同様の権利があります。

意見が食いちがってしまったり、受け入れてもらえなかったら、そこからまた対話を重ねる必要があります。不安、恐怖、怒りといった感情に振り回されず、きちんと言語化しながら対話を重ねるのは難しいことですが、それがお互いを尊重した人間関係を作る土台となっていきます。

とはいえ、長年身につけてきたコミュニケーションのあり方を変化させるのはとても大変です。まずは安心できる関係性の中で、少しずつ練習してみるのもよいかもしれません。アサーション・トレーニングの方法等、もっと詳しく知りたいという方は書籍等で調べてみるのもいいですね。もちろん、学生相談室にお尋ねいただいても大丈夫です。そして、人間関係に限らず、その他、学生生活でお困りのことがあれば学生相談室にご相談ください。ご利用お待ちしております。

【参考文献】

アサーション・トレーニング -さわやかな〈自己表現〉のために- 平木典子 日精研

(臨床心理士 上野みな子)

■ 学生相談室のご案内

学生生活の中で問題や悩みに出くわしたとき、独りで抱え込むのではなく気軽に相談室をご利用ください。相談は臨床心理士が担当し、学業、進路、課外活動、将来、対人関係、性格、家族、心身の健康についてなど、事の大小に関わらず学生生活に関わる様々な悩みや問題について幅広い相談をお受けしています。学生ご本人だけでなく、保証人や教職員の方からの相談も可能です。

● 相談申込み・問合せ先

学生相談室 育心館 4階

相談を希望される方は電話もしくはメールにて予約をお願いいたします。相談は無料です。

なお、COVID-19感染拡大防止の観点から、対面相談のほかに、オンライン相談（電話またはTeamsの音声通話）も実施しております。相談方法につきましてはカウンセラーにご相談下さい。その他詳細はお問合せ下さい。

・開室（受付）時間：月～金 8:45～17:15

・電話：075-595-4672（建部）／075-595-4986（上野）

・メール：gakusou@mb.kyoto-phu.ac.jp

挑戦する楽しさを

しみず りょうへい

清水 涼平



2021年 博士課程修了
(病態生化学分野)

神戸薬科大学
微生物化学研究室 特任助教

学生の皆さんは今の学生生活を楽しんでいますでしょうか。新型コロナウイルスの流行という未曾有の事態の中、思い描いたような学生生活を送っている人、そうでない人、様々な方がいらっしゃると思いますが、是非とも悔いのない学生生活を送っていただければと思っています。

私は学生時代、とにかく興味を持ったことにはとりあえず挑戦してみました。海外留学をしたり、サークルを立ち上げたり、学会発表に挑戦したりなど、とにかく面白そうなことには首を突っ込んでみるタイプでした。もちろんそうした挑戦は、上手くいった、いかなかったと様々でしたが(サークルは1年でなくなってしまいました…)、そこで得た経験や友人などの財産は今でも私の仕事や人生にプラスとなっていると感じています。

おそらく私は、そうした「新たなことに挑戦する楽しさ」に魅了され、研究の道を志すように

なったのかと思います。学部から大学院時代の研究生生活を通して、なかなか思うような結果を得ることは難しかったですが、新たな知識や実験技術を身につけ、未知のものへと挑戦していく過程は私にとって非常に心惹かれるものでした。

そのような学生時代を過ごしたこともあり、私は現在、比較的新しく発見された「ニューデシン」と呼ばれる分泌因子の生体内での役割について、神戸薬科大学で研究を行なっています。このニューデシンは近年、生体の様々な領域で作用していることが明らかとなってきたのですが、私自身は、学生時代に行なっていたダウン症研究の経験を活かして、中枢神経系疾患との関連性について研究を行なっています。新規物質の役割について、新たに探索することはやはり難しく、もっと色んな知識を身につけておけばよかったと思うことも多々ありますが、そういった中でも自分の経験を活かして研究に取り組んでいることにやりがいと充実感を覚えています。

学生の皆さんは将来の進路について定まっていますでしょうか。薬学部にいる皆さんには無限の可能性が秘められていると私は思っています。何になりたいか、何に興味があるかなんて挑戦してみないとわかりません。学生時代に様々なことに挑戦してみた結果、私にとってそれが研究の道であったように、皆さんにとって興味の持てる道を是非とも探してみてください。皆さんの学生生活が有意義なものになるよう願っています。

Library News

図書館

ILL現物貸借サービスを利用できるようになりました！

京都薬科大学図書館に所蔵していない資料の複写や図書を取り寄せることができるILLサービスをご存じでしょうか？ILLはInter Library Loanの略で、他の大学図書館等と協力して、自館で所蔵していない資料を取り寄せることができる相互利用サービスです。従来は文献のコピーの入手(文献複写)のみ対応していましたが、2022年7月より他大学の図書館等で所蔵している図書を借り受ける現物貸借サービスの利用が可能となりました。まずは、図書館ホームページのOPACで検索し、必要とする資料の所蔵がなければ、「学外文献複写・現物貸借依頼票」をカウンターへ提出するか、職員及び大学院生は、マイライブラリ>新規申し込み>「借用を依頼」からオンラインでお申込みできます。取り寄せにかかる費用は必要となりますが、求める図書や雑誌が図書館になかった場合もあきらめず、ILLサービスを活用し、ご自身の学習や研究にぜひお役立てください。

本学図書館の開館日程についてはホームページをご覧ください。
<https://www.kyoto-phu.ac.jp/library/>



■臨床薬剤疫学分野の漣航平さん（社会人大学院生）が令和3年度京都府薬剤師会病院診療所薬剤師部会において優秀学術論文賞を受賞しました

2022年5月23日（月）に開催された令和3年度京都府薬剤師会病院診療所薬剤師部会において、臨床薬剤疫学分野の漣航平さん（社会人大学院生）が優秀学術論文賞を受賞しました。

受賞：臨床薬剤疫学分野 博士課程4年次生 漣 航平

演題：Incidence of acute kidney injury after teicoplanin-or vancomycin-and piperacillin/tazobactam combination therapy: A comparative study using propensity score matching analysis

演者：漣 航平

■日本薬剤学会第37年会において、薬剤学分野の学生2名が最優秀発表者賞・日本薬剤学会永井財団学部学生七つ星薬師奨励賞を受賞しました

2022年5月26日（木）～28日（土）にオンラインで開催された日本薬剤学会第37年会において、薬剤学分野の学生2名が最優秀発表者賞・永井財団学部学生七つ星薬師奨励賞を受賞しました。

【最優秀発表者賞】

受賞：薬剤学分野 6年次生 正木 克弥

演題：一酸化窒素の腎臓ターゲティングによる腎細胞癌治療を目指したセリン修飾高分子型一酸化窒素供与体の開発

演者：正木克弥、勝見英正、今西智暉、田中里奈、高島梨恵、森下将輝、山本昌

【永井財団学部学生七つ星薬師奨励賞】

受賞：薬剤学分野 5年次生 安富 彰一龍

演題：セリン修飾高分子を利用したメトトレキサートの腎臓ターゲティングによる腎細胞癌治療法の開発

演者：安富彰一龍、勝見英正、木村葉、辰己日向子、北田翔、安岡慎太郎、森下将輝、山本昌



■薬品物理化学分野の長尾耕治郎准教授が2022年度日本膜学会第44年会において日本膜学会膜学研究奨励賞を受賞しました

2022年6月9日（木）～10日（金）に開催された2022年度日本膜学会第44年会において、薬品物理化学分野の長尾耕治郎准教授が日本膜学会膜学研究奨励賞を受賞しました。

受賞：薬品物理化学分野 准教授 長尾 耕治郎

演題：ショウジョウバエ細胞を用いた生体膜脂質の動態および機能の解明

演者：長尾耕治郎



■代謝分析学分野の近藤悠斗さんが第59回アイソトープ・放射線研究発表会において若手優秀講演賞を受賞しました

2022年7月6日（水）～8日（金）にオンラインで開催された第59回アイソトープ・放射線研究発表会において、代謝分析学分野の近藤悠斗さんが若手優秀講演賞を受賞しました。

受賞：代謝分析学分野 博士課程3年次生 近藤 悠斗

演題：ボロン前駆体を介した放射性ヨウ素化反応及びヒュスゲン環化付加反応の単一銅触媒による連続的な反応制御

演者：近藤悠斗、木村寛之、田村優衣、服部恭尚、安井裕之



■生薬学分野の中村誠宏准教授が「2nd place overall in research poster competition」を受賞しました

2022年7月29日（金）～31日（日）にWEB形式で開催された10th Asian Association of Schools of Pharmacy (AASP) Conference 2022において、生薬学分野の中村誠宏准教授が「2nd place overall in research poster competition」を受賞しました。

受賞：生薬学分野 准教授 中村 誠宏

演題：Identification for High-affinity Proteins to Sesquiterpene Lactone, Cynaropicrin, with Cytotoxicity and Inhibitory Activity against Nitric Oxide Production in RAW264.7 Cells

演者：Seikou Nakamura, Tomoko Matsumoto, Souichi Nakashima, Yasunao Hattori, Tomoshige Ando, and Hisashi Matsuda



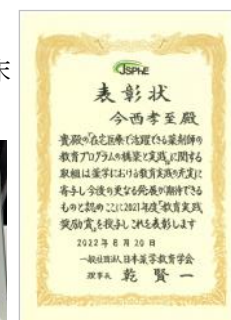
■臨床薬学教育研究センターの今西孝至講師が第7回日本薬学教育学会において「教育実践奨励賞」を受賞しました

2022年8月20日（土）～21日（日）に開催された第7回日本薬学教育学会において、臨床薬学教育研究センターの今西孝至講師が「教育実践奨励賞」を受賞しました。

受賞：臨床薬学教育研究センター 講師 今西 孝至

演題：在宅医療で活躍できる薬剤師の教育プログラムの構築と実践

演者：今西孝至



■衛生化学分野の高山健太郎准教授の論文に関連するイラストが「Chem. Pharm. Bull.」70巻、6号の表紙カバーとして選定されました

掲載雑誌：Chem. Pharm. Bull. 2022, 70, 413-419

タイトル：Peptide Tool-Driven Functional Elucidation of Biomolecules Related to Endocrine System and Metabolism

著者：Kentarō Takayama



■臨床薬剤疫学分野 村木教授の共同研究が薬事日報に掲載されました

臨床薬剤疫学分野の村木教授と昭和大学、日本薬剤師会の共同研究が薬事日報（2022年6月20日）に掲載されました。



掲載記事については

本学公式Webサイトよりご覧ください。

<https://www.kyoto-phu.ac.jp/compendium/paragraph/>



下記の方々からご寄附をお寄せいただきました。ご協力ありがとうございました。

- * 高額のご寄附（10万円以上）を頂いた方は、京都薬科大学奨学金規則及び学生便覧に掲載させていただきます。
- * 敬称略、芳名のみ掲載しております。
- * 100万円以上を頂いた方は、愛学館エントランス『京都薬科大学 高額寄附者顕彰銘板』にも掲載させていただきます。

2022年6月～2022年8月にご寄附をお寄せいただいた方々

＜卒業生・同期会等（五十音順）＞

東 富雄 武田 禮二

＜卒業50周年記念募金（昭和47年卒業生）＞

石原 照子	竹田 均	村田 保
大槻喜三郎	谷口林太郎	吉井 知
郡司久美子	増田 善昭	吉田千枝子
小林 知子	松林 照久	米満 弘夫
篠原 正史	三谷てるみ	渡辺 一雄
高岡 利直	三和 秀明	渡邊 萬里

＜企業・団体・一般＞

キノンビクス株式会社 株式会社茨木春草園

＜法人役員・評議員・職員（五十音順）＞

高野 江里（課 長）	土屋 勝（理事長）
武野 薫（室 長）	中谷 庄吾（課 長）

（2022年8月31日現在）



KPUNews No. 211 2022年10月発行／編集：KPUNews編集委員会
発行：京都薬科大学 〒607-8414 京都府京都市山科区御陵中内町5 ☎075-595-4691（企画・広報課）

※本誌掲載の文章及び写真の無断転載を禁じます。